

## 理学研究科技術職員研修でのやさしい日本語講座開催 (日本語日本文化教育センターへの講座開発協力)

植原 邦佳

技術部・グローバルD&I推進室 技術職員

2024年2月20日(火)に実施された理学研究科技術職員研修に日本語日本文化教育センター(日日センター)松岡里奈特任講師と接合科学研究所(接合研)植原邦佳技術職員が講師として登壇し、「やさしい日本語」に関する1日研修を行いました。

接合研は、2021年度より日日センターと連携し、研究所内の教職員向けに「日本語学習支援者養成プログラム」を実施してきました。「日本語学習支援者養成プログラム」は、接合研の留学生や海外研究者の受け入れ、対応等の基盤強化を目指し、言語・コミュニケーションの課題に対応すべく日日センターが開発したコースであり、留学生・外国人研究者(日本語学習者)の能力向上の手助けができる、或いは、日本語学習者とのより良いコミュニケーションを導ける人材を育成するものです。今回の理学研究科技術職員研修では、接合研で実施した「日本語学習支援者養成プログラム」のやさしい日本語編を技術職員の業務に特化した形で再編集することで、技術職員が日常業務での活用を見据えて受講でき、研修後にすぐに実践できることを目指したものでした。

研修前半は、話し言葉のやさしい日本語の講義の後、受講者は、実験補助やネットワークトラブルなどを想定したロールプレイに取り組みました。また、後半には、書き言葉のやさしい日本語を学び、安全に関するポスターやホームページの書き換え練習を行いました。受講者からは、「普段使っていた話し方が、人によってはわかりにくいことを学べた」「英語が話せなくても外国人と会話できることがわかりました」という声が挙がり、様々な専門技術を持つ技術職員がその専門の枠をこえて意見を交換し合い、日々の業務を見直す良い機会になったのではないかと感じました。

接合研から始まったこの「日本語学習支援者養成プログラム」は全学の技術職員を対象とした研修として展開し始めています。今後は、接合研で行っていたブレンド教育の手法を適用し、教育・研究支援に忙しい技術職員にとって持続可能な研修へと形を変えながら、技術職員に特化した内容へ刷新をし続けていく予定です。今後も接合研としてこのプログラムの発展・推進に協力し続けていき、大学の国際化に向けた一手を共に創り上げていきたいと思っております。

